親の養育行動と子どもの攻撃行動との関連の検討(3)

— 児童における関係性攻撃に注目して —

○桑原 千明・濱口佳和

(筑波大学大学院人間総合科学研究科)

キーワード：関係性攻撃・養育行動・社会的情報処理

An investigation on the association between parenting behavior and the development of aggressive behavior-III.

-Focused on relational aggression in elementary school children-

KUWABARA Chiaki ・ HAMAGUCHI Yoshikazu

Graduate School on Comprehensive Human Science, University of Tsukuba

Key words : Relational aggression ・ Parenting behavior ・ Social information processing mechanism

目 的

子どもの高い攻撃性・過度の攻撃行動は、攻撃を受ける者にとってのみならず、攻撃を行う者にとっても現在および将来の適応問題と関連することが指摘されている(Crick et al., 1997; 磯部, 2002; Vitaro, Gendreau, Tremblay, & Oligny, 1998 など)。子どもの攻撃行動の過度の形成を防ぐためには、その形成過程について明らかにすることが必要である。そこで、本研究では攻撃行動の発達についての示唆を得るため、養育行動が社会的情報処理を媒介として攻撃行動に影響を与えるというモデルの検討を児童期において行うこととした。社会的情報処理とは、対人相互作用場面における、①手がかりの符合化、②解釈、③目標の明確化、④反応の検索、⑤反応の評価、⑥反応の実行の6ステップからなる状況特異的なオンラインの情報処理であり、攻撃的な子どもは社会的情報処理の偏りを示すことが先行研究で確認されている(Dodge et al., 1986 他)。この攻撃的行動と社会的情報処理の関連は身体的攻撃だけでなく、仲間関係を操作することやその脅しによって他者を傷つける行動として定義される関係性攻撃でも報告されている(Crick & Werner, 1998)。本研究では攻撃行動として関係性攻撃に焦点を当て、養育行動、関係性侵害場面における社会的情報処理、関係性攻撃の3者関係を検討した。

方 法

分析対象 対象者は、公立小学校に在籍する4-6年生の児童39名、および担任教諭3名を対象とした。

調査材料および手続き 【養育行動】児童に質問紙調査を実施した。質問紙には、①FDT 親子関係診断検査(東・柏木・繁多・唐澤, 2002)から[被拒絶感(10項目)]、[厳しいしつけ(5項目)]、[被受容感(10項目)]、②TK 式診断的新親子関係検査(品川・品川・森上・河井, 1972)から[非難(8項目)]、さらに③[心理的コントロール(6項目)]が含まれていた。[心理的コントロール]は、Hart et al.(1998)を一部改訂したものであった。①、③は5件法、②は4件法で評定することを求めた。

【社会的情報処理】 児童に質問紙調査を実施した。質問紙ではまずイラストを用いて、対象児が他児から関係性侵害を受ける2場面(無視/仲間外れ)を提示した。続いて場面ごとに、①他児の意図の帰属(敵意的/偶然)、②応答的行動の評価、③応答的行動による他児の感情予期、④応答的行動による対象児の道具的目標達成予期、について尋ねる項目への回答を求めた。②-④の項目はその場面で児童が取りうる応答的行動(関係性攻撃行動・顕在的攻撃行動・有能主張行動)を文章で提示した上で、各応答的行動について質問項目を示した。なお、提示した場面における他児の意図はともにあいまいなものであった。この質問紙は坂井・山崎(2004)を参考に作成した。

【攻撃行動】 Children Social Behavior Scale-Teacher Form(Crick, 1996)の邦訳版(Kawabata, Crick, & Hamaguchi, in press)を使用した。[関係性攻撃(5項目)]、[身体的攻撃(4項目)]、[リーダーシップ(3項目)]、[仲間集団への誘い(3項目)]を担任教師が5件法で評定した。

結 果・考 察

【養育行動—社会的情報処理—攻撃行動の関連】 3者の関連を検討するために、重回帰分析を繰り返し用いて探索的に検討した。重回帰分析の結果、養育行動を独立変数、社会的情報処理を従属変数とした重回帰式はいずれも有意とはならず、社会的情報処理、養育行動を独立変数、関係性攻撃を従属変数とした重回帰式のみ有意となった($R^2=.24, p<.05$)。得られた関連は以下の通りである(Figure1)。

- ・ 親からの厳しいしつけを高く評価した児童ほど、教師評定の関係性攻撃行動得点が高い
- ・ 関係性攻撃に対する評価が低くない児童ほど、教師評定の関係性攻撃が高い (先行研究の知見と一致)
- ・ 関係性攻撃をすることが道具的目標達成につながらないと考える児童ほど、教師評定の関係性攻撃行動得点が高い

本分析結果から、社会的情報処理—攻撃行動、養育行動—攻撃行動の間の関連は認められたものの、養育行動—社会的情報処理の関連は認められなかった。児童がネガティブな養育行動を受けていると感じていること、一部の社会的情報処理の偏りがあることが、関係性攻撃の高さにつながることが明らかとなった。また、養育行動が社会的情報処理に直接影響を与えていないことから、児童期においては養育行動以外の要因が社会的情報処理に影響を与えている可能性と、児童期以前に養育行動が社会的情報処理に影響を与えて偏りが生じている可能性の2つの可能性が考えられた。今後さらに養育行動、社会的情報処理、攻撃行動の3者関係を検討するために、分析対象者数を増やすとともに、小学校低学年児童や幼児期の調査結果と併せて検討を加える必要があると考えられる。

(KUWABARA Chiaki, HAMAGUCHI Yoshikazu)

Figure1 養育行動—社会的情報処理—関係性攻撃行動のパスダイアグラム